

大会テクニカルレポート

大会名 5年生選抜研修大会

日時 1月21日(土)1月28日(土)

会場 南豊ヶ丘フィールド

東京都少年サッカー連盟

委員長

高山 清

技術指導部長

井上 雅志

文責

技術指導部

神長 雄太

結果概要

優勝

準優勝

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	28	129	4.6

講評

東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

ボールだけを観てしまい、マークしていた相手に背後を取られて失点する場面が見られた。攻撃時には、積極的にスペースや相手を観て、判断した動きが多く見られた。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

状況を観て、判断したのにテクニックが発揮できず奪われることがあった。また、プレーの選択肢をたくさん持っていない、状況に応じて変化が出来ていなかった。ゴール付近でのテクニックはアイデアをたくさん持っている選手が多かった。

③攻守に関わり続ける

DFの選手が攻撃に関わる機会が多く、オーバーラップをする選手が多かった。前線からの守備の切り替えが少なく感じた。守備のプレッシャーが緩く、守備の力強さは、感じられなかった。GKも含めたポジションもあり、全体で試合をしていたチームもあった。

④積極的にコミュニケーションできる

GKが積極的にDFに働きかけていた。後ろからの声かけは合ったが、アプローチが弱く、相手に自由にボールを持たせる機会が多かった。

⑤リスペクトの心をもてる

リスペクトする場面が少なく、笛が鳴った後でもプレーして、相手をリスペクト出来ていなかった。

総評

21日南豊ヶ丘にて、開催された5年生選抜研修大会は、各ブロック選抜として、技術の高いゲームが行われていた。特に11ブロックは、攻守に見応えのある試合をされていた。選手たちがオンとオフで首を振って周りを観て、状況に応じたテクニックを発揮していた。今年は多くのブロックがゴールへの意識がとても高い選手が多かった。

28日南豊ヶ丘2日目では、初日とは変わって相手に応じたテクニックが多くのブロックで見られた。初日では、コミュニケーションの部分では少なく感じ、パスミスやコントロールミスが多く見られたがそれを修正して、ゴール前まで運ぶ機会が多く、得点されていた。それとは反面で、守備の意識が少し弱く感じた。ファーストDFの決定ができていない、ボールを持った選手に自由を与えていた。また、アプローチの距離が遠く、シュートを打たせることも多かった。守備へのコミュニケーションも攻撃と同じくらいやってほしい。

昨年よりゴール数が減っていますが、ゴール前でのプレーが多く、状況に応じたテクニックのレベルをもっと上げることで、改善できるように感じた。攻撃への手数をかけずにゴールへ素早く目指すことで、スピーディにゴールチャンスをたくさん作っていたのが良かった。